

新情報端末市場動向調査報告講演会

■主 催：パーソナルコンピュータ事業委員会

■担当部署：コンシューマ・プロダクツ部

■参加者数：約90名

概 要

インターネットは、パソコンの能力向上及びインフラ性能の向上に伴い、広範な領域に拡大し、必須のインフラとして普及領域拡大と新たなビジネスチャンスを生み出してきました。特に、最近のICT関連端末市場ではパソコン以外に、従来の商品区分では分類が難しい“スマートフォン”や“タブレット型情報端末”といったモバイル情報端末が、新たな利用シーンや市場を形成しつつあります。このような状況の下、講演会の冒頭、新情報端末市場検討TF 藤浪克美座長（日本電気(株)）から、次の通り調査の概要説明が行われました。

- ・ パーソナルコンピュータ事業委員会では、市場の健全な発展に寄与するため、業界共通の課題の洗い出しを行っています。
- ・ その一環として、5年後までを見据えた市場に出現している端末の国内市場規模予測、既存市場への影響度及び市場浸透の課題等について、委託調査を実施しました。

続いて、今回の委託調査結果について株式会社MM総研 アナリスト 中村成希氏から調査報告が行われました（概要は次の通り）。

- ・ タブレット型コンピュータ、スマートフォン等、タッ

チデバイスを中心に搭載し、新しい操作性を提案した新情報端末が、機器出荷全体を牽引していく。

- ・ 従来のパーソナルコンピュータと、新端末のカニバリズム（食い合い）については限定的であり、今後普及が予測される新端末と、すでに普及が進んでいるパソコンの相互補完によって市場全体が活性化されると捉えている。
 - ・ ネットブック端末とタブレット型端末は食い合いを起こす部分がある。一方でタブレット型端末とモバイルノート端末は、文字入力（特に文書作成等）の必要度に応じて使い分けられ、食い合いはおこさないと予想される。モバイル型ノートは、タブレット型端末やスマートフォンの登場によって改めて注目されていくと考えている。
 - ・ 電子書籍端末、フォトフレーム等、特定用途の利用を想定している端末についても、インターネット及びネットワーク接続によるコンピュータ機器との連動を前提とした利用へのニーズが高くなる。
- 最後に、パーソナルコンピュータ事業委員会 伊賀和寿委員長（日本電気(株)）から、今後の事業委員会の活動概要と閉会の挨拶が行われました。

プログラム

○「調査の概要について」

新情報端末市場検討TF 座長 藤浪克美 氏

○「新情報端末の市場動向」

(株)MM総研 アナリスト 中村成希 氏

○「PC事業委員会の今後の活動について」

パーソナルコンピュータ事業委員会 委員長 伊賀和寿 氏

